



株主のみなさまへ

第22期

平成21年12月1日～平成22年5月31日

株主・投資家の皆様へ

代表取締役会長兼社長
グループCEO
谷間 真



減収を継続していく企業に未来はないことは当然である

当第2四半期の業績は減収増益という結果となっております。コストコントロールにより増益とはなりましたが、企業が社会に役立つための組織であるとするならば、減収とは、その役割が減少していることを意味しており、そのような企業に未来がないことは明白です。

われわれは、当第2四半期までの間に、成長に向けての新たなマーケットへの挑戦を含めた戦略立案・アライアンス、そしてグループ全体のイノベーションを進めています。第3四半期以降、それらの施策の一つ一つがカタチとなり、玄品グループは再度成長フェーズに入り、成長企業へと生まれ変わります。

経営陣だけではなく、全ての社員が「イノベーション」に取り組む集団にする

企業を動かすのは「人」です。玄品グループが成長軌道を継続できなかった本当の理由は市場環境の原因などではなく、明らかに「人」の問題です。われわれは、戦略やビジネスモデルだ

けでは、企業は成長できないということを痛感し、全ての社員の意識改革、分かりやすく言えば「世界で通用する人材となる」というスローガンのもとに、見聞を広げ、自己研鑽に取組む「志」の高い集団にすべく、日々社員たちと向き合っています。

「玄品ふぐ+α」戦略によるさらなる発展フェーズへ

「玄品ふぐ」は、ふぐ料理専門店でありながらオペレーションを簡素化し、チェーン展開に適したビジネスモデルとして発展してまいりました。一方で、社会の急激な変化への対応力のある自立した人材を教育することができず、戦略立案のボトルネックが人材であるという結果を招いてしまいました。経済環境が厳しい状況で推移していく中で、われわれは強いビジネスモデ

ルである「玄品ふぐ」に、まぐろ、漁港直送の地魚などの他の要素を付加する「玄品ふぐ+α」戦略によって収益力の向上を図りとらふぐ料理の事業をさらなる発展フェーズへと導きます。

今期は、この戦略に則り、まぐろ専門店「トロバカ」を「玄品ふぐ」と併設し、大幅な収益改善を達成しています。7月に立ち上げた「対馬倶楽部」も合わせて、とらふぐ料理だけをやってきた社員と共に成長し、「玄品ふぐ」をさらに競争力ある業態へとイノベーションしていきます。

「トドクック」は現場のイノベーションを終え、顧客創造へ

これまでの「トドクック」の業績低迷の原因は、各現場の状況をトップマネジメントが詳細に把握することなく、戦略を立案し、実行してきたことにあります。われわれは、2010年11月までに品質管理、ロジスティクス、サービス、戦略商品投入などの各現場のイノベーションを終え、12月より顧客創造のためのマーケティングフェーズに移行し、売上回復を図ります。

成長するマーケットへ向けての事業開発

第一次産業が流通販売にも業務展開をする第六次産業の分野。中国、アジア圏を中心とした海外事業。われわれの有する冷凍・解凍技術、業態開発力、とらふぐ料理の経験、人的ネットワークなどあらゆる経営資源を駆使し、成長するマーケットへ向けての事業開発が進んでおります。われわれは、その重要性から事業開発部を新設し、私自身が事業開発部長を兼務し、先頭に立って指揮をとっていきます。

玄品グループがやるべきことは明確になりました。

これからは、実行あるのみです。株主の皆様には、今後ともご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

財務ハイライト

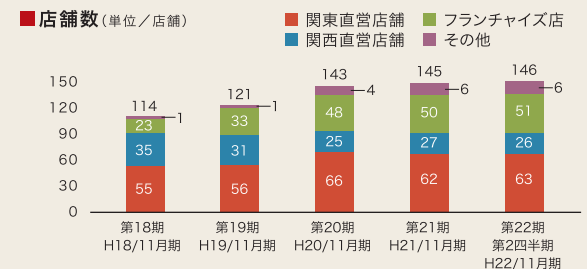
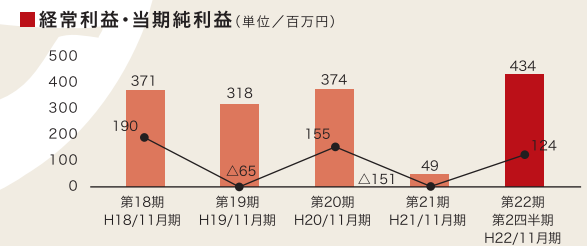
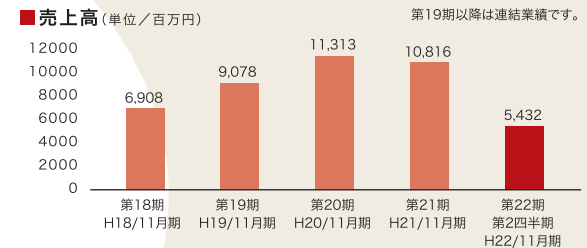
財務状況

当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は5,432百万円（前年同期比16.0%減）となりましたが、利益につきましては、営業利益466百万円（前年同期比6.9%増）、経常利益434百万円（前年同期比7.3%増）と減収増益となっております。四半期純利益につきましては、事業上不必要となった不動産の売却等による特別損失計上により124百万円（前年同期比25.1%減）となりました。

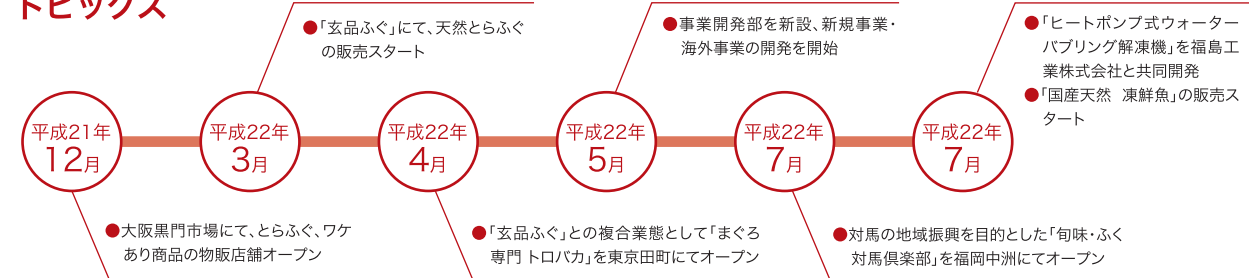
セグメント別では、研究開発型外食事業につきましては、「玄品ふぐ」は、現在直営店舗67店舗、フランチャイズ店舗51店舗、計118店舗、「すし兵衛」「玄品以蟹茂」等のその他の外食店舗28店舗と合わせて146店舗を展開しております。業績面では、厳しい経済環境の中、店舗運営の改善により直営店舗では回復の兆しが見られるものの、全体としましては売上高は3,742百万円（前年同期比11.8%減）、営業利益は656百万円（前年同期比2.4%減）となりました。

総菜宅配事業につきましては、調達・加工・物流方法の抜本的見直しに着手し、商品力の向上に向けた取り組みを開始しており、売上高は1,617百万円（前年同期比17.8%減）、前年同期24百万円の営業損失に対し、営業損失3百万円となっております。

その他の事業につきましては、前連結会計年度において沖縄における業務用酒販事業から撤退した事により、売上高は72百万円（前年同期比71.9%減）と大幅に減少しましたが、営業利益は18百万円（前年同期比5.0%増）となりました。平成22年11月期の通期の業績につきましては、売上高9,700百万円、営業利益270百万円、経常利益180百万円、当期純利益20百万円を見込んでおります。



トピックス



連結財務諸表

連結貸借対照表 (要約)

資産の部		
	当第2四半期 (H22.5.31現在)	前期 (H21.11.30現在)
流動資産	3,403,968	4,202,991
現金及び預金	861,221	1,063,330
売掛金	441,693	614,007
商品及び製品 ※1	1,691,481	1,881,573
仕掛品 ※2	132,673	161,967
原材料及び貯蔵品	64,932	142,449
その他	243,174	368,649
貸倒引当金	△31,209	△28,985
固定資産	3,997,861	4,233,572
有形固定資産 ※3	2,283,467	2,460,354
建物及び構築物(純額)	1,615,460	1,699,548
その他(純額)	668,006	760,805
無形固定資産	562,377	602,645
のれん	479,759	503,480
その他	82,618	99,165
投資その他の資産	1,152,016	1,170,571
差入保証金	915,009	916,939
その他	250,344	253,632
貸倒引当金	△13,337	-
資産合計	7,401,829	8,436,563

(単位:千円)

負債の部		
	当第2四半期 (H22.5.31現在)	前期 (H21.11.30現在)
流動負債	3,638,646	4,193,062
買掛金	261,467	301,541
短期借入金	967,336	1,693,334
1年以内返済予定の長期借入金	1,649,286	1,591,491
未払金	346,126	473,899
未払法人税等	232,295	35,208
賞与引当金	20,169	-
その他	161,965	97,587
固定負債	2,647,487	3,195,582
長期借入金	2,427,047	2,939,991
その他	220,440	255,591
負債合計	6,286,133	7,388,645
純資産の部		
株主資本	1,089,409	1,024,154
資本金	324,060	324,060
資本剰余金	433,056	433,056
利益剰余金	620,272	555,017
自己株式	△287,980	△287,980
評価・換算差額等	△259	840
新株予約権	26,545	22,924
純資産合計	1,115,695	1,047,918
負債・純資産合計	7,401,829	8,436,563

連結損益計算書 (要約)

	当第2四半期 (H21.12.1～H22.5.31)	前第2四半期 (H20.12.1～H21.5.31)
売上高	5,432,845	6,469,741
売上原価	2,072,691	2,599,112
売上総利益	3,360,153	3,870,629
販売費及び一般管理費	2,893,477	3,434,086
営業利益	466,676	436,542
営業外収益	18,753	20,137
営業外費用	51,221	51,983
経常利益	434,209	404,696
特別利益	12,136	2,448
特別損失 ※5	72,821	75,717
税金等調整前四半期純利益	373,524	331,427
法人税等	248,569	164,692
四半期純利益	124,954	166,734

連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

	当第2四半期 (H21.12.1～H22.5.31)	前第2四半期 (H20.12.1～H21.5.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー ※6	1,052,689	284,521
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,763	5,292
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,244,033	△373,034
現金及び現金同等物の増減額	△202,108	△83,220
現金及び現金同等物の期首残高	1,063,330	1,092,582
現金及び現金同等物の四半期末残高	861,221	1,009,361



※1 商品及び製品

1,691百万円（前期末比190百万円の減少）

商品及び製品の大半は、「玄品ぶぐ」で提供される超低温で保管されているとらふぐです。このとらふぐの在庫投資により「玄品ぶぐ」は、変動の激しいとらふぐ相場の中、安定した収益が確保されています。今期は、在庫投資を抑制しているために減少傾向にあります。

※2 仕 掛 品

132百万円（前期末比29百万円の減少）

仕掛品は主に長崎県対馬、三重県熊野灘において自社養殖中のとらふぐです。

※3 有形固定資産

2,283百万円（前期末比176百万円の減少）

有形固定資産は、新規出店を抑制していることから、減価償却、固定資産譲渡等により減少しています。今後も出店コストを抑制していく方針のため減少する見込みです。

※4 有利子負債

5,043百万円（前期末比1,181百万円の減少）

収益性の向上、在庫投資、新規出店投資の抑制により、有利子負債の圧縮に努めます。

※5 特別損失

72百万円（前年同期は75百万円）

事業上不必要となった固定資産売却損46百万円、株式会社富士水産におけるたな卸資産廃棄損21百万円等が計上されています。

※6 営業活動によるキャッシュ・フロー

1,052百万円（前年同期は284百万円）

たな卸資産の圧縮、法人税等により営業活動によるキャッシュ・フローは大幅な改善となっております。

新規事業情報

「玄品ふぐ+α」戦略

焼津漁港直送 まぐろ専門 トロバカ

焼津漁港から直送されるまぐろを中心としながらも、沼津漁港直送の地魚も取り入れ、幅広いニーズに対応できる業態となっている。連日、店内では解体ショーが行われ、さらに生まぐろを使った500円ランチや解体ショー付宴会など話題には事欠かない。不採算店舗であった「玄品ふぐ田町の関」の2階部分をリニューアルし4月にオープン。「玄品ふぐ」と他業態とのキッチンを共有化することで、収益性は大幅に改善する。



旬味・ふく 対馬倶楽部

グループ会社富士水産が対馬で養殖するとらふぐと対馬の豊富な天然食材、郷土料理を看板に「玄品ふぐ中洲の関」をリニューアルオープン。対馬地域振興の役割も果たしており、多くの対馬関係者の応援をいただくことでふぐ料理の顧客以外の新規顧客を創造していく。対馬近海ものの地魚の品質は素晴らしく競争力を有しているため、大阪・東京でも出店を計画している。



株式の状況

平成22年5月31日現在 株式の状況

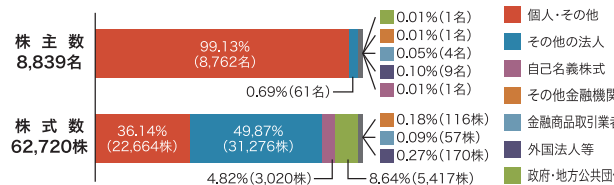
発行可能株式総数	200,000株
発行済株式の総数	62,720株
株主数	8,839名

大株主

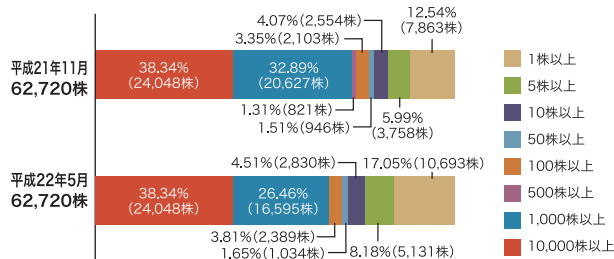
株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合
株式会社ヤタガラスホールディングス	24,048	38.34%
財務大臣	5,417	8.64%
サッポロビール株式会社	5,102	8.13%
有限会社サンミート	1,880	3.00%
谷間真	1,176	1.88%
浅野省三	413	0.66%
八藤真	400	0.64%
関門海福株会	270	0.43%
山元正	240	0.38%
吉崎晃敏	221	0.35%

※当社は自己株式3,020株(所有割合4.82%)を保有しておりますが、大株主の状況には含めておりません。

所有者別株式分布状況



所有株式数別分布状況



株主優待制度

株主優待制度概要

- 1株以上3株未満 — 優待券×1枚(3,900円相当)
- 3株以上5株未満 — 優待券×2枚(7,800円相当)
- 5株以上 — 優待券×3枚(11,700円相当)



対象となる株主様

毎年5月31日、11月30日現在の株主名簿に記載された株主様

優待内容

1	とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」	秘玄匠味セット1人前ご優待
2	かに料理専門店「玄品以蟹茂」	ズワイ蟹鍋と炭火烧2人前ご優待 もしくは、3,900円相当の割引
3	当社グループ直営店舗	3,900円相当の割引
4	お取り寄せ玄品ふぐ	3,900円相当の割引
5	玄品ふぐひれ酒セット	オリジナルひれ酒セットと引き換え
6	「レシピと食材 トドクック」	宅配トドクック5食セットと引き換え
7	富士水産	対馬の高級干物と引き換え

「株主優待券」のご送付時期

- 5月31日現在の株主名簿に記載された株主様に対しましては、8月中旬頃の発送予定となります。
- 11月30日現在の株主名簿に記載された株主様に対しましては、2月下旬頃の発送予定となります。

配当実施のお知らせ

当社グループは、新規出店、技術開発、人材育成への投資及び内部留保に留意しつつ、同時に当社株式を長期保有していただいております株主の皆様への利益還元として、積極的に配当を実施していくことを基本方針としております。

配当の内容

中間配当につきましては、平成22年7月9日公表のとおり、1株当たり1,000円の配当を実施いたします。期末配当につきましては1,000円を予定しており、年間配当は1株当たり2,000円となります。なお、期末配当金額につきましては、現段階での予測となっており、変更する可能性もございます。

株主メモ

決 算 期	毎年11月30日
基 準 日	毎年11月30日
中間配当基準日	毎年5月31日
株式の売買単位	1株
公 告 掲 載 方 法	電子公告による(http://www.kanmonkai.co.jp) 但し電子公告を行えない場合は、日本経済新聞に掲載する。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777

会社概要

株式会社 関門海 KANMONKAI Co.,Ltd.

創 業	昭和55年9月 創業者山口聖二が大阪府藤井寺市にてとらふぐ料理「ふぐ半」 (現「玄品ふぐ藤井寺の関」)を開店
設 立	平成元年5月 株式会社さかな亭(現：株式会社関門海)を設立
所 在 地	●本社所在地 〒550-0014 大阪市西区北堀江2丁目3番3号 TEL:06-6578-0029(代表) FAX:06-6578-0030 お問い合わせ info@kanmonkai.co.jp URL http://www.kanmonkai.co.jp ●玄品食門研究所 〒580-0041 大阪府松原市三宅東1丁目8番7号 ●東京本部 〒108-0071 東京都港区白金台5丁目4番7号

資 本 金 3億2,406万円(平成22年5月31日現在)

役 員	代表取締役会長兼 社長グループCEO 谷間 真
専 務 取 締 役	田中 正
専 務 取 締 役	山元 正
取 締 役	大村美智也
取 締 役	本多 正嗣
取 締 役	岩本 昌志
取 締 役	原 真理
社 外 取 締 役	川合アユム
常 勤 監 査 役	松本 滋
社 外 監 査 役	浅野 省三
社 外 監 査 役	玉置 和則

従業員数 192名(平成22年5月31日現在)

- 事業内容
- 「美味で健康的な本物のおいしさ」を追求する食材関連技術の開発
 - とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の直営及びフランチャイズによる店舗展開
 - 食材関連技術を活用した新規開発事業による店舗展開

